

はじめに 厳しい冬から一気に陽春、季節の移り変わりは劇的です。さて、協会が設立されて1年、いくつかの成果をあげることができましたが、群馬の子どもへの囲碁普及は未だ緒についたばかり。次の1年、どんな布石を打つべきなのでしょう？劇的に飛躍する妙手はないのでしょうか？ 今後一層の努力が求められていることだけは確かです。 代表 三谷昇

1 藤本喬也君 全国ベスト8！ ----- 第2回くらしきこども棋聖戦〈高学年の部〉2012.12/15

群馬県予選(9/16)で優勝した藤本喬也君(伊勢崎広瀬小5年)は、倉敷市で行われた第2回くらしきこども棋聖戦全国大会の高学年の部に出場し、予選を3戦全勝で枠抜けして決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメント1回戦では敗れたものの、見事全国ベスト8の偉業達成です。低学年の部の群馬代表藤本隼也君(同小2年)は、予選2勝1敗の大健闘でした。全国でも戦える子が群馬にも出てきたことは他の子にも大きな励みになります。

2 群馬こども囲碁指導者交流会の開催 2012.11/15

伊勢崎ふくしプラザで開催された交流会には、県内の10のこども囲碁教室と伊勢崎市内7つの小学校囲碁クラブのこども囲碁指導者20名が参加しました。こども教室等への事前のアンケートの集約結果を参考にして、活動状況や指導法などの情報交換、課題や段級認定基準などについて意見交換をおこないました。パワーポイントを用いた入門指導法の紹介などもあり、得ることの多い有意義な3時間でした。指導者不足や高齢化は大問題で、後継者を探すことの必要性を再認識しました。

3 第2回伊勢崎大会、青柳透真君 優勝 2012.12/23

伊勢崎市教育委員会の山口晃教育長の来賓挨拶のあと、大会審判長三谷哲也7段の合図で一斉に対局が始まりました。参加者はこれまでの県こども大会で最多の138人でした。

1月から日本棋院院生となることが決まっていた青柳君は、伊勢崎杯選手権で優勝し、最後の大会で結果を残せたことを喜んでいました。

9路盤の2ブロックで優勝したのはこの夏から始まった玉村町こども囲碁教室の市村直太郎・孝太郎兄弟。玉村町長に優勝を報告し、これが町の広報に掲載されました。

今大会には、伊勢崎北小からは26人が参加しました。指導者のみなさんの尽力のおかげです。

〈伊勢崎杯選手権〉		
優 勝	青柳 透真	(館林・五小5年)
準優勝	小鮎 林音	(伊勢崎・北小5年)
3 位	石井 蓮	(富岡中1年)
〈棋力認定戦 優勝者〉		
19路盤A	北爪 舞	(ぐんま国際アカデミー中1年)
" B	今井 丈	(伊勢崎・名和小3年)
" C	藤井 絢音	(太田・綿打小3年)
13路盤	三田健太郎	(富岡・高瀬小5年)
9路盤 A	市村直太郎	(玉村・南小2年)
" B	市村孝太郎	(玉村・南幼稚園)
" C	根岸 尚矢	(伊勢崎・宮郷小3年)

4 小中学生と高校生との交流戦 2013.2/11

高崎高校で、県内の高校囲碁部生徒と小中学生21人が、交流戦をおこないました。県高校囲碁連盟との共催で今回が2回目となります。勝敗によって1局ごとに点数が上下するというシステムで6局対戦し、小中学生側は石井蓮君を含む8人が勝ち越し、高校生に互角以上の成績を収めました。普段交流のない相手との対局は大きな刺激になりました。

5 『いせさき元気大賞』を受賞 ----- 小学校団体戦全国4位入賞の広瀬小チーム(惣蔵・藤本・須田)

「市民に勇気・希望・元気を与え、いせさきの町づくりに貢献した」ということで、平成24年度の『いせさき元気大賞』を受賞し、2月7日、伊勢崎市長から賞状・賞品を授与されました。また伊勢崎市教育委員会からは、全国的な活躍をした市内の小中学生にあたる『みやま賞・赤城賞』を授与されました。

6 群馬県の全国大会代表枠数、小学校3校・中学校2校に-----25年度 小・中学校団体戦

昨年の県予選の実績に基づき各県の全国大会代表枠数に変更になりました。小学校の代表枠数、トップの東京5校について埼玉・宮城と並び群馬は3校となりました。今後は毎年見直すとのことです。今年は全国大会に出場できるチャンスです。

〈今後の予定〉

- 第34回少年少女囲碁県大会 (4/28 伊勢崎市民プラザ)
- 玉村町こども囲碁入門教室 (6/2 玉村町勤労者センター)
- 第10回小中学校囲碁団体戦県予選 (6/9 伊勢崎市民プラザ)
- 首都圏カップ県代表選手強化練習会 (8/4 ?)
- 第3回首都圏カップこども囲碁団体戦 (8/11 埼玉県川口市)